



株式会社アサヒコ

行田で作られる豆腐食品が秘めるチカラ



会社プロフィール

代表取締役 池田 未央

【事業内容】豆腐・油揚げ・豆腐加工食品の製造販売

【所在地】持田 2—17—8

近年巷で話題の「おやつ豆腐バー」。昔から親しまれている豆腐を生かした罪悪感のないおやつとして人気急上昇中です。今紹介するのは、この商品を製造販売している株式会社アサヒコです。

同社は昭和47（1972）年に朝日食品株式会社として創業し、事業分割などを経て平成28（2016）年6月に現在の株式会社アサヒコとなりました。現在は韓国で健康機能食品などを中心に事業展開するブルムウォンの傘下に入り、グローバル企業として時代に合わせた豆腐の価値を世界に向けて発信しています。

行田工場では豆腐をはじめ、油揚げや豆腐バーなどを製造しており、商品の研究開発を行うR&Dセンターもこの行田工場に所在しています。創業当時の豆腐づくりの技術を生かし、さらなる品質向上や新商品の開発に取り組んでいます。

今注目を浴びている豆腐バーは代表取締役の池田さんがアメリカ視察の際に見た硬い豆腐に着想を得て開発されたそうです。そして消費者の健康志向ともマッチする形で気軽にタンパク質が摂れる商品として大ヒット。その結果社風もより良くなり、池田さんと社員らの関係も他社にあまり見られないほどの近さです。

「会社全体として目指す方向を理解しているので、商品開発のスピードも非常に速い」と話すマーケティング本部の新しい井さん。代表取締役の池田さんは本社のある都内から頻繁に行田工場を訪れ、社員らと気軽に会話をしながら商品開発に向けた情報交換などを行っているそうです。最近では研究開発部門や営業部門の社員だけでなく、工場の従業員まで交えて他社の豆腐試食会も行っています。こうした代表取締役との距離の近さ、アットホームな職場環境が社員らの熱意にも繋がっています。

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。
特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課（内線318）までお寄せください。

私の作品

俳句

緑町 松林 真弓

里山につづく畦道曼珠沙華

藤原町 斎藤雄次郎

敬老日夫なき母の独り言

門井町 宮田 淑尚

八十は老いの序の口栗爆ぜる

小見 三宅 典之

白菜の重ね着綴じる藁の帯

城西 榊原しずか

精と根尽し切ったる破芭蕉

矢場 島田 健治

言ひ掛けて濁す言の葉秋の暮

門井町 塚原 武夫

天高し校友集う新校舎

忍 大澤 由子

教へ子の晴れの舞台や秋高し

富士見町 鈴木スイ子

秋の夜や我が人生は岐路ばかり

○俳句応募方法 一人3句以内。毎月末日（必着までに、住所、氏名（ふりがな）、電話番号を明記の上、はがき・封書で広報広聴課。なお、一部添削して掲載する場合がありますが、不要であれば「添削不要」と記載してください。

行田歴史系 369

資料がかたる行田の歴史

69

行田足袋商による頼母子講

頼母子講とは、金銭の融通を目的とした民間の互助組織です。一定の期日ごとに講の構成員があらかじめ定めた講の掛け金を出し、所定の金額の取得者を抽選や入れ札で決めました。原則全員が取得し終わるまで続けるものです。

写真の史料は、天保14（1843）年に高砂屋十助が発起人となった頼母子講に参加した田島屋吉右衛門が落圖し、153両を受け取ったことの証文です。頼母子講には支払いなどに関する講員による取り決めがありますが、本文中にも「御連中御定」という文言があります。これに従って、吉右衛門は金を受け取った以降も

毎回掛け戻しとして10両を支払う義務がありました。証文の表題が「預り申金子證文之事」となっているのもこのためです。一回の掛け金も最低でもこの額だったと思われる。会の開催の頻度は分かりませんが、掛け金が10両でもらえる額が153両なら最低でも15〜16回は掛け続ける必要がありました。

また、落圖者とともに保証人である柏屋金六と亀屋長右衛門が署名押印しています。彼らは吉右衛門が頼母子講を続けることができず、掛け金の支払いが不可能となった場合には、代わりに支払いの義務がありました。

世話人の高砂屋金右衛門は足袋商の秋山金右衛門です。頼母子講の発会の理由はさまざまですが、配当金が153両であり、最低10両の額を掛け続けることができるので、参加者は行田町や周辺の村の富裕層となります。その中で高砂屋金右衛門が世話人になっていることから、同家が行田町において経済的地位が高かったことや、その背景には町の主要産業であり、同家も営んでいた足袋産業による利潤があると考えられます。足袋屋は当時の行田町の金融にも深く関わっていたのです。

（郷土博物館 鈴木紀三雄）

来て！見て！

図書館

としょかん

●●●●●●●●

開館時間

午前9時～午後7時

休館日

12月2日(月)・3日(火)・9日(月)～
19日(木)・23日(月)・28日(土)～
令和7年1月3日(金)・6日(月)・
14日(火)

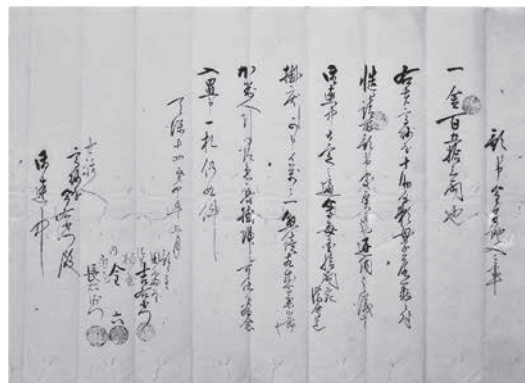
※休館日の図書の返却はブックポストをご利用ください。(年末年始を除く)

●市立図書館●

佐間3—24—7（「みらい」内）

TEL:556—4227

FAX:555—3770



預り申金子證文之事(頼母子講落圖につき)